

～適期の刈り取りで収量・品質を確保～

1 8月20日現在の生育状況 ～穂数やや多く、一穂粒数少ない～

表1 水稻定点調査結果（8月20日）

	穂数 (本/m ²)	一穂着粒数 (粒/穂)	m ² 当たり着粒数 (粒/m ²)	出穂期 (管内全域盛期)
本年	501	63.9	32,034	8月1日
平年	482	67.7	32,569	8月4日
平年比	104%	94%	98%	-3

品種：あきたこまち、管内5カ所平均

- 管内では、7月29日頃から出穂が見られており、管内全域の出穂盛期は、平年より3日早い8月1日となりました。
- 穂数は、6月以降、日照時間は多く、気温の日較差は大きくなったことで、分けつの発生が促進されたことから、平年比104%と多くなりました。
- 一穂粒数は、幼穂形成期（7月15日頃）から減数分裂期（7月25日頃）にかけて葉色が低下したことにより、平年比94%となりました。
- m²当たり粒数（m²当たり穂数×一穂着粒数）は、穂数がやや多いことから、平年並に確保されています。
- 8月10日～18日にかけて、平年を下回る気温で経過したものの、19日以降は概ね平年並の気温で推移しており、登熟は順調に進んでいます。
- 葉色の濃いほ場では、草丈（稈長）が長い状況です。このようなほ場では倒伏が懸念されることから、今後は落水により田面を固くしましょう。

2 斑点米カメムシ類防除～収穫2週間前まで畦畔・農道の草刈り禁止～

- 病害虫防除所から、8月6日に注意報第1号（「斑点米カメムシ類の水田内への侵入早く、発生量が多い」）が発表され、また、8月19日には防除対策情報第10号（「水田内に雑草が見られるほ場で斑点米カメムシ類が多い」）が発表されました。
- 本年は、斑点米カメムシ類の発生が多いことから、斑点米被害に注意する必要があります。
- 斑点米カメムシ類を効率よく防除する対策として、草刈り禁止期間を設けています。収穫2週間前までは草刈りを行わないようにしてください。

3 刈り取り ～適期の刈り取りで品質低下防止～

刈取適期の判断基準

- ①出穂後の日数
早生品種で45日前後、中晩生品種で50日頃
- ②籾の熟色
葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90%（黄色＋黄白色の割合）の頃
- ③枝梗の黄化程度
穂の主軸の上から5番目までの枝梗が黄化した頃
- ④出穂後の積算気温：出穂期翌日から日平均気温を積算した値（表2参照）
早生品種（あきたこまち等）・・・950～1,050℃
中晩生品種（めんこいな等）・・・1,050～1,150℃

表2 出穂後の積算気温による到達日予想

出穂期	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃
	早生品種「あきたこまち」等				
			中晩生品種「めんこいな」等		
7月29日	9月10日	9月13日	9月15日		
8月1日	9月14日	9月17日	9月19日	9月22日	9月25日
8月4日	9月18日	9月21日	9月24日	9月27日	10月1日
8月7日	9月23日	9月26日	9月30日	10月3日	10月7日

8月23日までは実況値、8月24日以降は平年値で計算

- 本年の出穂盛期の8月1日出穂のあきたこまちでは、9月14日～19日頃が積算気温から推測した刈り取りの目安となります。
- 籾の熟色や枝梗の黄化程度を観察し、刈り取り適期を見極めてください。